

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	純真学園大学
設置者名	学校法人純真学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
保健医療学部	看護学科	夜・通信	0	0	13	59	13	
	放射線技術科学科	夜・通信			13		13	
	検査科学科	夜・通信			17		13	
	医療工学科	夜・通信			16		13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure06.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	純真学園大学
設置者名	学校法人純真学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.junshin.org/sougou_johokokai/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	公認会計士	令和7年6月17日～令和9年度定時評議員会 終結の時まで	財務面への助言、提言等
非常勤	他の学校法人理事	令和7年6月17日～令和9年度定時評議員会 終結の時まで	学校法人運営全般の助言、提言等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	純真学園大学
設置者名	学校法人純真学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
シラバス作成においては、12月ごろに次年度の科目責任者がおおよそ決定するため、シラバス作成マニュアルと共に科目責任者へシラバス作成の依頼を行っている。マニュアルは毎年教務委員会で見直し、必要に応じ改訂を行っている。科目責任者が作成したシラバスは、教務委員会で確認し、内容に問題がないか確認している。シラバスはWebでの公表を行っているため、各責任者に随時確認しながら、4月には学生・一般の方に対し、公表している。	
授業計画書の公表方法	http://cpweb.junshin-u.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学修成果の評価については、Webシラバスにおいて「成績評価」という項目を設け、成績評価を行う具体的な項目(定期試験・レポート等)と評価選定に占める各項目の割合を数字で明示している。各教員は「成績評価」に記載した評価方法を元に、最終的な成績評価を実施している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
GPAは、卒業に必要な単位として算入することのできる授業科目について、 $A^+ = 4.0$ 、 $A^- = 3.7$ 、 $B^+ = 3.3$ 、 $B = 3.0$ 、 $B^- = 2.7$ 、 $C^+ = 2.3$ 、 $C = 2.0$ 、 $C^- = 1.7$ 、 $D^+ = 1.3$ 、 $D = 1.0$ 、 $F = 0$ のグレードポイント(GP)を付与し、その科目のGPに各授業科目の単位数を乗じて、その総和を登録科目総単位数で割って算出している。 ただし、(1)本学以外で修得した科目、(2)入学前に修得した科目、(3)履修登録期間中に、履修中止申請のあった科目については、GPA算出の対象外としている。 GPAを適切に運用するため、教務システムに上記の計算方法を登録し各学生の各学年、半期毎のGPAおよび累計GPAを算出している。	

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure07.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定に関する方針として「純真学園大学 ディプロマポリシー」を定め、本学ホームページにて公表している。 卒業認定については、ディプロマポリシーを踏まえ本学で定めている卒業要件を満たすかについて4年次後期に行われる卒業判定会議で確認し、学長が卒業を認めている。卒業要件は学生に対し、学生便覧にて予め明示している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.junshin-u.ac.jp/about/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	純真学園大学
設置者名	学校法人純真学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.junshin.org/sougou_johokokai/
収支計算書又は損益計算書	https://www.junshin.org/sougou_johokokai/
財産目録	https://www.junshin.org/sougou_johokokai/
事業報告書	https://www.junshin.org/sougou_johokokai/
監事による監査報告(書)	https://www.junshin.org/sougou_johokokai/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.jiheer.or.jp/search/result_report.php?fyear=2023

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保健医療学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure01.html) (概要) 【純真学園大学学則 第 1 条】 純真学園大学は、教育基本法及び学校教育法の本旨に則り、広く知識を授け深く専門の学芸を研究教授するとともに、純真学園建学の精神に基づき、教養豊かにして学識高き人材を養成することを目的とする。 【純真学園大学 保健医療学部規則 第 3 条】 本学部は、純真学園大学の建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」に基づき、保健医療学に関する教育研究を通して、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観を育み、保健・医療・福祉の分野において広く貢献できる人材の育成を目的とする。 【純真学園大学 保健医療学部規則 第 4 条】 各学科の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。 (1) 看護学科は、看護学に関する専門知識・技術・態度の教育研究を行い、高い倫理性に基づいて健康についての問題を包括的に捉え、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者の育成を目的とする。 (2) 放射線技術科学科は、放射線技術科学に関する専門知識・技術の教育研究を行い、豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ科学的判断能力と問題解決能力を備えた人材の育成を目的とする。 (3) 検査科学科は、検査科学の専門知識・技術の教育研究を行い、豊かな人間性と高い倫理観とともに、科学的根拠に立脚した課題探求能力と実践的な問題解決能力を備えた人材の育成を目的とする。 (4) 医療工学科は、生命維持管理装置を中心とした専門知識、技術の教育研究を行い、確かな知識と技術を備え、生命の尊さ、安全を第一に考え、敏速に行動できる医療従事者の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure01.html) (概要) 純真学園大学の建学の精神に則り、本学に 4 年以上在学し、各学科が定める所定の単位取得を通じて、以下に示す知識・能力・態度を身につけた者に対して卒業を認め、学士の学位を授与する。 【看護学科】 ＜知識・技能＞ 1. 看護実践の基盤となる専門的知識を修得している。 2. エビデンスに基づいた看護技術を修得し実践できる。 3. 対人関係構築に必要な高いコミュニケーション技術を修得している。 4. 看護における問題解決力を修得している。 ＜思考・判断・表現＞ 1. 多様な場であらゆる健康段階の人々を理解し、看護を提供することができる。 2. 保健・医療・福祉チームの一員として他の職種と協働し、看護の専門性を発揮できる。

3. 国際的視野を持ち、保健・医療・福祉に関わる多様な課題を見出すことができる。
4. 命の尊厳や権利擁護に基づく倫理的判断・行動ができる。

＜関心・意欲・態度＞

1. 豊かな人間性を磨き、看護職としての社会的使命感を持つ。
2. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけている。
3. 生涯にわたり、看護を工夫し探求する態度を身につけている。
4. 奉仕の精神を持ち、主体的に社会貢献活動ができる。

【放射線技術科学科】

＜知識・技能＞

1. 診療放射線技師としての高い専門的知識を修得している。
2. 診療放射線分野の基盤となる基本技術を修得している。
3. 対人関係構築に必要なコミュニケーション技術を修得している。
4. 診療放射線分野における知識と技術をもって問題解決力を修得している。

＜思考・判断・表現＞

1. 医療を取り巻く社会の変化を把握し、人間の生涯におけるあらゆる健康段階の人々への診療放射線分野を实践できる。
2. 保健・医療・福祉チームの一員として他の職種と協働し、診療放射線分野の専門性を発揮できる。
3. 国際的視野を持ち、多様な文化を尊重し行動できる。
4. 診療放射線分野に携わる者としての自覚をもち、命の尊厳や権利擁護に基づく倫理的判断・行動ができる。

＜関心・意欲・態度＞

1. 幅広い教養の涵養と多様な文化に触れて感性豊かな人間性を磨き、自分と周囲の人々と物事との関係性に目を向けることができる。
2. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけている。
3. 診療放射線分野の質の向上に貢献できるよう、生涯にわたり放射線検査を工夫し探求する態度を身につけている。
4. 奉仕の精神を持ち、将来に渡って地域のリーダーや社会貢献ができる。

【検査科学科】

＜知識・技能＞

1. 臨床検査の礎となる基本技術を修得している。
2. 臨床検査実践のための専門的知識を修得している。
3. 対人関係構築に必要なコミュニケーション技術を修得している。
4. 臨床検査における最新知識と技術を持って問題解決能力を修得している。

＜思考・判断・表現＞

1. 医療を取り巻く社会情勢を把握し、あらゆる健康段階の人々への臨床検査の实践ができる。
2. 保健・医療・福祉チームの一員として他の職種と協働し、臨床検査の専門性を発揮できる。
3. 国際的視野を持ち、国内外の臨床検査に関わる課題について考えることができる。
4. 命の尊厳や権利擁護に基づく倫理的判断・行動ができる。

＜関心・意欲・態度＞

1. 奉仕の精神を持ち、国内外の社会的課題を理解し、リーダーシップをもって主体的に社会貢献活動ができる。

2. 幅広い教養の涵養と多様な文化に触れて感性豊かな人間性を磨き、自分と周囲の人々と物事との関係性に目を向けることができる。 3. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけている。 4. 生涯にわたり臨床検査を工夫し探求する態度を身につけている。 【医療工学科】 ＜知識・技能＞ 1. 臨床工学の専門知識を修得している。 2. 臨床工学実践の基本技術を修得している。 3. 対人関係の構築に必要なコミュニケーション技術を修得している。 4. 臨床工学における最新知識と技術に基づく問題解決力を修得している。 ＜思考・判断・表現＞ 1. 医療を取り巻く社会情勢を把握し、臨床工学の実践ができる。 2. 保健・医療・福祉チームの一員として他の職種と協働し、臨床工学の専門性を発揮できる。 3. 国際的視野を持ち、多様な文化を尊重し行動できる。 4. 命の尊厳や権利擁護に基づく倫理的判断・行動ができる。 ＜関心・意欲・態度＞ 1. 豊かな人間性を磨き、臨床工学技士としての使命感を持っている。 2. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけている。 3. 生涯にわたり臨床工学分野において工夫し探求する態度を身につけている。 4. リーダーシップの意識を持ち、多数の人と協働して社会貢献活動ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure01.html)
(概要) 純真学園大学では、「気品・知性・奉仕」という建学の精神に基づき、これらを具現化するために純真学を配置するとともに、幅広い教養と高い倫理観および使命感を備え、チーム医療や地域・国内外において医療職としての専門性を発揮できる人材育成を目指して、以下のカリキュラムを編成する。 カリキュラムは、保健医療学部の4学科(看護学科・放射線技術科学科・検査科学科・医療工学科)が、お互いの職種を尊重し連携するための素養を修得する科目を柱に、基盤教育科目および専門教育科目を段階的に編成している。 【看護学科】 1. 豊かな人間性を磨き、『気品』『知性』『奉仕』の建学の精神と社会的使命感を身につける「純真学」の科目群を配置する。 2. 1年次の初年次教育として「キャリア形成」科目群、「情報科学入門」、「情報科学基礎」を配置し、大学での学修に必要なスタディスキルとキャリア形成につながる主体的学修態度を身につける。 3. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけるため、「人間と社会の理解」の科目群を配置する。 4. 全学科合同横断型教育プログラム「チーム医療」の科目群を通して、多職種との相互理解に基づく問題解決能力と看護の専門性とリーダーシップを発揮する能力を育成する。 5. ICTの活用および情報管理能力を養うため、「情報リテラシー」の科目群を配置し、基本的アプリケーションの操作から情報リテラシー、AI基礎技術まで修得する。 6. 「ボランティア」での社会貢献活動、「キャリア形成」の科目群、「チーム医療」の科目群における演習、および各看護専門科目におけるシミュレーション演習や臨床実習を通して、高いコミュニケーション力を育成する。

7. 臨床判断能力の基盤となる専門基礎科目の配置と、各看護専門科目の段階的かつ体系的な配置により、あらゆる健康段階にある対象に対し、多様な場で貢献できる看護実践力を修得する。

8. 「医学英語」まで修得可能な外国語科目で語学力を育成するとともに、「異文化交流」での海外研修、「国際看護論」、各看護専門科目をとおり、国際的視野を持って活動できる力を育成する。

9. 各看護専門科目の講義・演習や臨地実習での体験、「倫理学」、「生命・医療倫理学」、「看護倫理」を通して、医療人として必要な倫理的判断・行動を身につける。

10. 生涯において看護を工夫し探求する姿勢を身につけるため、「看護研究」及び「卒業研究」を配置する。

【放射線技術科学科】

1. 豊かな人間性を磨き、『気品』『知性』『奉仕』の建学の精神を身につけるため「純真学」の科目群を配置する。

2. 1年次の初年次教育として「キャリア形成」科目群、「情報科学入門」、「情報科学基礎」を配置し、大学での学修に必要なスタディスキルとキャリア形成につながる主体的学修態度を身につける。

3. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけるため「人間と社会の理解」の科目群を配置する。

4. 奉仕の精神を養成し主体的に社会貢献する意識を高めるため「ボランティア」および「キャリア形成」の科目群を配置し、その活動の中でコミュニケーション力を育成する。

5. 多様な文化を理解し、国際社会で活躍できる能力を養うため「外国語」の科目群および「異文化交流」「医学英語」の科目を配置する。

6. ICTの活用能力を修得するため「情報リテラシー」の科目群を配置する。

7. 医療人として必要な倫理的判断・行動を身につけるため、各診療放射線専門科目の講義・実験や臨床現場での実体験ならびに「倫理学」「哲学」を配置する。

8. 診療放射線の専門性を発揮し、多職種と協働しながら問題解決する能力を育成するため、「チーム医療」の科目群を配置して、全学科横断型教育プログラムを実施する。

9. 体系的に放射線技術学の専門基礎科目では「医学の基礎」の科目群、ならびに「理工学的基礎および放射線科学の基礎」の科目群を配置する。

10. 体系的に放射線技術学の専門知識の技術を修得するために「診療画像技術学・臨床画像学領域」「医療画像情報学領域」「各医学検査技術学領域」「放射線治療技術学領域」「放射線安全管理学領域」「医療安全管理学領域」の各科目群を配置する。

11. 生涯にわたり診療放射線分野において工夫し探求する姿勢を身につけるため「乳腺検査学」「オートプシーイメージング学」「災害医療学概論」「モンテカルロ法演習」「医療文献講読」「卒業研究」の科目を配置し、自ら課題を発見し解決する能力を高める。

【検査科学科】

1. 豊かな人間性を磨き、『気品』『知性』『奉仕』の建学の精神を身につけるため「純真学」の科目群を配置する。

2. 1年次の初年次教育として「キャリア形成」科目群、「情報科学入門」、「情報科学基礎」を配置し、大学での学修に必要なスタディスキルとキャリア形成につながる主体的学修態度を身につける。

3. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけるため「人間と社会の理解」の科目群を配置する。

4. 奉仕の精神を養成し主体的に社会貢献する意識を高めるため「ボランティア」および「キャリア形成」の科目群を配置し、その活動の中でコミュニケーション力を育成する。

5. 多様な文化を理解し、国際社会で活躍できる能力を養うため「外国語」の科目群および「異文化交流」「医学英語」の科目を配置する。

6. ICTの活用能力を修得するため「情報リテラシー」の科目群および「人工知能学」を配置する。

7. 医療人として必要な倫理観を身につけるため「倫理学」「医療倫理学」の科目を配置し、各専門科目の講義・実習や臨地実習を通して倫理的判断力および行動力を育成する。
8. 臨床検査学の知識をもとにチーム医療の一翼を担うことのできる能力を身につけるために、全学科横断型教育プログラムとしての「チーム医療」の科目群、ならびに「臨床検査学概論」を配置する。
9. 臨床検査学の専門知識と技術を基盤に生命科学をはじめとした多様な分野で活躍できる能力を身につけるために、総合検査学科科目群を配置する。
10. 臨床検査学の専門知識と技術を身につけるために、専門基礎科目群ならびに専門科目群および「臨地実習」を配置する。
11. 臨床検査学と食の知識を融合させて予防医学分野に貢献できる能力を身につけるために、食品分野に関する科目を配置する。
12. 生涯にわたり臨床検査学分野を探究する姿勢を身につけるため、「専門ゼミナール」および「卒業研究」を配置し、自ら課題を発見し解決する能力を高める。

【医療工学科】

1. 豊かな人間性を磨き、『気品』、『知性』、『奉仕』の建学精神を身につけるため、「純真学」の科目群を配置する。
2. 1年次の初年次教育として「キャリア形成」科目群、「情報科学入門」、「情報科学基礎」を配置し、大学での学修に必要なスタディスキルとキャリア形成につながる主体的学修態度を身につける。
3. 人々の価値観や生活を尊重し、他者に学ぶ謙虚さを身につけるため、「人間と社会の理解」の科目群を配置する。
4. 奉仕の精神を養成し主体的に社会貢献する意識を高めるため、「ボランティア」および「キャリアスキル演習」の科目を配置し、その活動の中でコミュニケーション力を育成する。
5. 多様な文化を理解し、国際社会で活躍できる能力を養うため、「外国語」の科目群および「異文化交流」、「医療英語」、「国際保健学」の科目を配置する。
6. ICTの活用能力を修得するため、「情報リテラシー」の科目群を配置し、基本的なアプリケーションの使用方法からAI基礎教育まで行う。
7. 医療人として必要な倫理的判断力と行動力を身につけるため、「倫理学」、「医療倫理学」の科目を配置する。また、医療工学の各専門科目や臨床実習を通して医療倫理感を体得する。
8. 臨床工学の専門性を発揮し他職種と協働しながら問題解決する能力を育成するため、「チーム医療」の科目群を配置して、全学科横断型教育プログラムを実施する。
9. 体系的に医療工学の専門知識を修得するため、「科学リテラシー」の科目群、専門基礎科目では「基礎医学」、「医工学」の各科目群、また専門科目では「医用機器学」、「臨床工学」、「総合臨床工学」の各科目群を配置する。
10. 体系的に臨床工学実践の基本技術を習得するため、「医工学」、「医用機器学」、「臨床工学」の各分野で実習科目および「総合臨床工学」における「臨床実習」の科目を配置し、臨床工学分野における業務遂行能力を養う。
11. 生涯にわたり臨床工学分野において工夫し探究する姿勢を身につけるため、「最新医療特論」の科目を配置し、自ら課題を発見し解決する能力を高める。

学修成果の評価は、授業の進度に合わせてシラバスに明示された到達目標と評価方法（小テスト、筆記試験、課題レポート、グループワークへの取り組み、実習評価等）によって実施する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure01.html>）

(概要)

純真学園大学では、本学の建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」に則り、幅広い教養と高い専門知識と技術を身に付け、社会に貢献しようとする意欲ある人を求めています。

【看護学科】

＜知識・技能＞

1. 看護の専門知識を学ぶために必要な基礎学力を有している人。
2. 幅広い分野に知的関心を持ち、様々な技能を身につけている人。

＜思考・判断・表現＞

1. 物事を多面的にとらえ深く考えることができる人。
2. 多様な情報の背景や根拠を読み解き、適切に判断できる人。
3. 相互理解につとめ、良好なコミュニケーションが取れる人。

＜関心・意欲・態度＞

1. 人間と健康をとりまく社会の動向に関心がある人。
2. 目的意識を持ち、前向きに努力できる人。
3. 命を大切に思い、人に対する思いやりがある人。

＊大学入学までに身につけておくべき能力

看護学科では特に次の教科に関する力を身につけておく必要があります。

- ・国語（読解力）
- ・理科（「生物」、「化学」、「物理」の内、2科目における知識と科学的思考力）

＊入学者選抜基本方針

学力試験を課する一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、2種類の学校推薦型選抜（指定校・公募）および社会人選抜という多様な選抜方法を採用して、入学者を選抜します。

【放射線技術科学科】

＜知識・技能＞

1. 放射線分野の専門知識を学ぶために必要な基礎学力を有している人。
2. 幅広い分野に興味を示し、積極的に挑戦する人。

＜思考・判断・表現＞

1. 物事を多面的にとらえ深く考えることができ、わかりやすく説明できる人。
2. 多様な情報の背景や根拠を読み解き、適切に判断できる人。
3. 相互理解につとめ、良好なコミュニケーションが取れる人。

＜関心・意欲・態度＞

1. 医用画像やがん治療に興味がある人。
2. 目的意識を持って課題を見つけ、問題を解決するための努力ができる人。
3. 協調性をもって人々と関わりが保てる人。
4. 社会貢献の重要性を理解し、献身的に業務が実行できる人。
5. 放射線技術を基盤に多様な分野で活躍したい人。

＊大学入学までに身につけておくべき能力

放射線技術科学科では特に次の教科に関する能力を身につけておく必要があります。

- ・国語（読解力）
- ・数学、理科（「物理」、「化学」の知識と科学的思考力）

＊入学者選抜基本方針

学力試験を課する一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、2種類の学校推薦型選抜（指定校・公募）および社会人選抜という多様な選抜方法を採用して、入学者を選抜します。

【検査科学科】

<知識・技能>

1. 臨床検査技師国家資格取得に向け必要な基礎学力を有している人。
2. 自分の経験と知識を基に新たなことを発信することができる技術を有している人。

<思考・判断・表現>

1. 自分の思考を文章にして伝えることができる人。
2. 物事を多面的・総合的にとらえ適切な判断ができる人。
3. 問題事象を分析しわかりやすい言葉で説明できる人。

<関心・意欲・態度>

1. 生命とバイオサイエンスに興味がある人。
2. 課題探求・問題解決に意欲を持つ人。
3. 協調性を持ち、独創性と柔軟な思考力を身につける意欲のある人。
4. 社会貢献の重要性を理解し実行できる人。

*大学入学までに身につけておくべき能力

検査科学科では特に次の教科に関する能力を身につけておく必要があります。

- ・国語（読解力）
- ・理科（「生物」、「化学」の知識と科学的思考力）

*入学者選抜基本方針

学力試験を課する一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、2種類の学校推薦型選抜（指定校・公募）および社会人選抜という多様な選抜方法を採用して、入学者を選抜します。

【医療工学科】

<知識・技能>

1. 本学科の修学に必要な基礎学力（特に数学、物理）を備えている人。
2. 自ら長所を伸ばす努力ができ、資格または特別な経験を持っている人。

<思考・判断・表現>

1. 物事を多面的にとらえ、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つ人。
2. 多様な情報の背景や根拠を読み解き、適切に判断できる人。
3. 他者の考えを理解すると共に、自分の意見を分かりやすく伝えることができる人。

<関心・意欲・態度>

1. 医療工学に関心がある人。
2. 課題探求・問題解決に意欲を持つ人。
3. 協調性を持ち、創意工夫を好み、常に向上心のある人。
4. 社会貢献の重要性を理解し実行できる人。

*大学入学までに身につけておくべき能力

医療工学科では特に次の教科に関する能力を身につけておく必要があります。

- ・国語（読解力）
- ・数学、理科（「物理」、「化学」の知識と科学的思考力）

*入学者選抜基本方針

学力試験を課する一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、2種類の学校推薦型選抜（指定校・公募）および社会人選抜という多様な選抜方法を採用して、入学者を選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure02.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
保健医療学部	－	30 人	17 人	19 人	16 人	1 人	83 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		112 人					112 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://www.junshin-u.ac.jp/about/teacher/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保健医療学部	295 人	306 人	103.7%	1,180 人	1,147 人	97.2%	0 人	0 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	295 人	306 人	103.7%	1,180 人	1,147 人	97.2%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保健医療学部	256 人 (100%)	9 人 (3.5%)	222 人 (86.7%)	25 人 (9.8%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	256 人 (100%)	9 人 (3.5%)	222 人 (86.7%)	25 人 (9.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバス作成においては、12 月ごろに次年度の科目責任者がおおよそ決定するため、シラバス作成マニュアルと共に科目責任者へシラバス作成の依頼を行っている。マニュアルは毎年教務委員会で見直しを行い、必要に応じ改訂を行っている。科目責任者が作成したシラバスは、教務委員会にて体裁や内容に問題がないか確認している。 シラバスは Web での公表を行っているため、各責任者に随時確認しながら、4 月には学生・一般の方に対し、公表している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) GPA は、卒業に必要な単位として算入することのできる授業科目について、A^+、$A = 4.0$、$A^- = 3.7$、$B^+ = 3.3$、$B = 3.0$、$B^- = 2.7$、$C^+ = 2.3$、$C = 2.0$、$C^- = 1.7$、$D^+ = 1.3$、$D = 1.0$、$F = 0$ のグレードポイント (GP) を付与し、その科目の GP に各授業科目の単位数を乗じて、その総和を登録科目総単位数で割って算出している。 ただし、(1) 本学以外で修得した科目、(2) 入学前に修得した科目、(3) 履修登録期間中に、履修中止申請のあった科目については、GPA 算出の対象外としている。 GPA を適切に運用するため、教務システムに上記の計算方法を登録し各学生の各学年、半期毎の GPA および累計 GPA を算出している。 卒業の認定に関する方針として「純真学園大学 ディプロマポリシー」を定め、本学ホームページにて公表している。 卒業認定については、ディプロマポリシーを踏まえ本学で定めている卒業要件を満たすかについて 4 年次後期に行われる卒業判定会議で確認し、卒業を認めている。卒業要件は学生に対し、学生便覧にて予め明示している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
保健医療学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
	放射線技術科学科	124 単位	有・無	単位
	検査科学科	124 単位	有・無	単位
	医療工学科	124 単位	有・無	単位

G P A の活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/disclosure07.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
保健医療 学部	看護学科	900,000 円	200,000 円	550,000 円	施設設備維持費、実験実習費
	放射線技術科学科	900,000 円	200,000 円	550,000 円	
	検査科学科	900,000 円	200,000 円	450,000 円	
	医療工学科	900,000 円	200,000 円	450,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 修学の支援として、早期に入学が決定する推薦型選抜・総合型選抜・社会人選抜合格者を対象に各学科で指定した科目を受講させる入学前準備教育を実施している。また、入学後には全1年生を対象に基礎学力試験を行い、成績下位者を対象としたリメディアル授業（国語・数学・物理・化学・生物）を実施している。 また、個々の学習支援のためスモールグループ担当教員（SG 教員）を設け、履修指導・学習方法の相談対応などを担当している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア関係科目4科目を1年次から3年次にかけて必修科目として実施している。授業では、「医療技術職に求められる能力」についての講演や「職務適性テスト」を実施するとともに「自己分析講座」において学生本人が喜びを感じるポイント、何に価値を見出すかについて考えさせる機会を設け、「応募先比較検討講座」や専門性を活かせる民間企業について「学内説明会」をおこない幅広く選択肢を提示することで、学生の価値観に合った進路が選択でき就職後のミスマッチを防ぐよう支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生の心身の健康等に係る支援については、主に健康管理センター（学生相談室及び保健室）及び学生係が各学科教員と連携して対応している。 保健室は基本的に週5日開室しており、学生の負傷や急な発病時の応急処置に対応している。また、女子学生の在籍者数が多い本学の特性を考慮して、保健室は男子学生用と女子学生用の2部屋を設置し、学生のプライバシーに配慮している。 本学は病院・施設等での実習を行うことから、感染症予防対策が必須であり、定期健康診断の際には、該当の学生に必要な抗体検査を実施している。これらの結果が基準値に達しない学生に対してはワクチン接種を行うよう、健康管理センター及び各学科が指導している。加えて、新入生については結核菌検査として、QFT ゴールドプラス検査を実施している。 心的支援については、各学科、健康管理センター、学生係が連携をとり対応を行っている。 学生相談室は週4回開室し、本学が委嘱しているカウンセラーによるカウンセリングを受けることが可能である。 また、「精神的健康度調査」（UPI: University Personality Inventory）を導入し、学生の心の健康度・疲労度の把握に努めている。回答内容の分析や面談は学生相談室が行い、心的支援が必要と考えられる学生については情報を所属学科等必要関係先へフィードバックすることにより、学科における学生の心的支援をサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.junshin-u.ac.jp/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F140310110892
学校名（〇〇大学 等）	純真学園大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人純真学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		327人（ 210 ）人	314人（ 199 ）人	335人（ 217 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	91人	78人	
	（うち多子世帯）	（ 21人）	（ 19人）	
	第Ⅱ区分	39人	44人	
	（うち多子世帯）	（ － ）	（ － ）	
	第Ⅲ区分	25人	26人	
	（うち多子世帯）	（ － ）	（ － ）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	44人	34人	
	区分外（多子世帯）	128人	132人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（ 0 ）人
合計（年間）				336人（ 217 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他の不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	12人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	27人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	—	人	人
計	27人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。